

「きのこの山」

西尾老人保健施設 塚本 健二

【目的】 上肢機能練習(つまみ動作、リーチ動作など)として、各種ペグがよく用いられますが、何となく無機質で、単純な反復作業になり易い印象があります。

そこで、少しでも動作に楽しさを感じる、或いは視覚的に楽しめるような上肢機能練習を実施して頂けたらと思い、複数のペグ(きのこをイメージ)を用意、作製しました。それを、少しでも温かみのある台座を使用させて頂こうと、木の切り株に設置してみました。

【使用手順】

「きのこ」のような形をしたペグを使用して、手の運動を行って頂くことを説明します。

ペグの特徴として、穴と棒の関係になっているもの、ベルクロや磁石などで接着されているもの、ネジとネジ穴の関係になっているものがあることを、実際に操作方法を見て頂きながら説明します。

箸や皿などの入れ物に、台座(切り株)から外したペグを入れて頂きます。その後、同じ場所にペグを戻して頂きます。

* 作業姿勢: 椅子座位、車椅子座位での机上作業

【効果】

つまむ、捻る、剥がす、嵌める、挿すといった色々な手の使い方を一つの道具で、視覚的にも楽しく行なうことができます。

ペグと適合する台座の関係が限られており、一定の枠組みの中で、自分の体の使い方を考えていくことができます。

反復可能な作業であり、つまむ動作等の低下が見られている方が少しずつ滑らかな作業ができるようになった時など、視覚的にも成果が明らかで、達成感が得られる作業です。

自分の体の前に十分収まる大きさであり、作業姿勢として、「きのこの山」を自分の腕で抱えるように自分の領域を確保しながら作業できます。

ペグを戻し、盛り付けていく際には、自分なりの世界を創造していく充実感が得られます。

【使用例(適応症例)】

巧緻性の低下している方。

ピンチ力の低下している方。

構成力が低下している方。

上肢の各関節の動きが低下している方。

利き手交換を行う方、或いは両手動作を行う方。

* 具体的疾患

頸椎症、脳卒中、認知症。

【反応、結果】

1年半程使用していますが、「見た目に楽しい」と言われる方が多く見られています。

材料として、刺身の飾りとして付いている花などを再利用したことを伝えると、何となく道具に親近感を持たれる方が多く見られます。

色んな形をしたペグがありますが、見た目でどのように操作するか、概ねご自身で操作方法を理解し、実施されています。

左側へ注意が向かない方は、台座を手探りされながら、そこにあるペグに気付かれることもあります。

一番細長いネジの操作を行う際に、「どれだけ回したら抜けるんだろう?」と、先(根っこ)が見えない作業に一喜一憂される方も見られます。

【作製方法】

材料: 切り株、木製ピン、ボルト、ベルクロ、磁石、木工用ボンド、造花など

道具: ドリル、紙やすり、のこぎり

作成工程

台座となる切り株にドリルを使用して、いくつか穴を開けます。必要に応じてやすりがけを行います。

ベルクロや磁石を切り株に接着します。

切り株に開けた穴に、目的に応じてネジなどの必要な物品を固定して完成です。

作成上の注意点

手前のペグが低くなるようにペグを配置します。

作成金額

身の回りの物品や廃材をリサイクルしたり、組み合わせることで費用を削減できると思いますが、今回作成した費用は約3,000円ほどだったと思います。

【管理、手入れ】

大きさが3cmほどの細かな物品も含まれているため、物品を口に含んでしまう傾向があるような方には使用を控えて頂きます。

長い間使用していると、手が良く触れる部分に変色してきますので、必要に応じてやすりがけをしたり、ニスを塗ってペグを保護します。



【 作品の全体写真 】

きのこ(小さいきのこ、中くらいのきのこ、平たいきのこ、穴の開いたきのこ、ネジきのこ)の山に、花や蛙も一緒に暮らしています。



【 使用風景写真 】

つまんだり、捻ったりして、きのこや花などを収穫していきます。収穫したら、また元の場所に戻していきます。山の固定が不十分な方には滑り止めを敷いて使用して頂きます。



【 作品の特徴を示す写真 】

きのこ、花、蛙を媒体とした操作の対象物が、ネジであったり、磁石であったり、マジックテープであったり、或いは穴に挿すものもあれば、棒に挿すものもあります。